



武蔵野

学校だより NO.10
令和 7 年 2 月号
昭島市立武蔵野小学校
校長 大河原 博



武蔵野小 HP

もうすぐ春の季節がやってきます。

副校長 大森 雅之

「雪が溶けて川になって流れていきます。つくしの子がはずかしげに顔を出します。もうすぐ春ですねえ、…」昔のアイドルグループ(キャンディーズ)の歌の歌詞の一部です。春は、別れと出会いそして、物事が動き、始まる季節です。

楽しみでもあり、寂しくもあり…

もうすぐ暦の上で春が始まる「立春」「節分」を迎えます。

昔から伝わっている季節の行事には、先人の思いや願いが込められています。

季節の始まり日である「立春、立夏、立秋、立冬」の前日を「季節を分ける＝節分」といい、季節ごとに年 4 回あります。中でも、昔の日本では春は 1 年の始まりとされ、暦の上で春が始まる日を「立春(りっしゅん)」(2 月 4 日ごろ)と呼び、春が始まる前日の「節分」を特に大切にしていました。



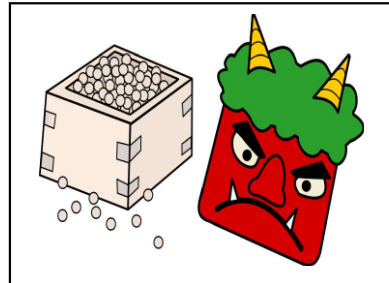
ちなみに、この節分ですが 2 月 3 日で決まりではなく、2 日や 4 日になる年もあり、日にちは固定ではありません。

2021 年は、2 月 2 日が節分でした。

地球が太陽の周りを 1 周するのに、実際には 365 日と約 6 時間かかり、6 時間が 4 年で 1 日になるため、閏年(うるうどし)で調整しています。しかし、二十四節気(昔の暦で、1 年を春夏秋冬の四つの季節に分け、さらにそれぞれを六つに分けたもの)の場合は閏年では追いつかず、45 分ほどずれ続けていきます。この調整のため立春と節分がずれることがあるのです。

では、節分には、どうして豆をまくのでしょうか。

一般的には「邪気を払い、無病息災を願う行事」といわれています。昔から「季節の変わり目は邪気(悪い気)が入りやすい」と考えられ、この時期は寒く体調を崩しやすいことから新年を迎えるにあたって、邪気を清め「悪いものを追い出し」、1 年間の無病息災「みんなが健康で幸せに過ごせますように」を祈る行事として行われてきました。



地域によって内容は異なりますが、悪いもの(鬼)を追い払い、良いもの(福)を呼び込むために、豆まきをします。豆を自分の歳の数だけ食べると、体が丈夫になって病気になりにくいとも言われています。

「鬼は外! 福は内!」お子さんと豆まきをしたり、恵方巻を食べたりしながら先人の願いに思いを馳せ、季節の行事と一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか。

別れの 3 月、出会いの 4 月に向け、学校では本格的に学年のまとめに入ります。

【クイズコーナー】無病息災を願いながら食べる七草がゆの習慣は、江戸時代に広まりました。春の七草の名前七つ言えますか。

【2 月の生活目標：寒さに負けず、元気にすごそう】

(あいさつ・ふれあい月間)

寒さが続くと心身が縮こまり背中が丸くなってきます。そんな時こそ、体を動かし、外で元気に遊びましょう。空気が乾燥し、風邪やインフルエンザが流行する季節です。

体を動かし、換気・手洗い・うがいをして予防し、元気にすごしましょう。

【クイズ答え】「セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ」
ゴギョウはハハコグサ、ハコベラはハコベ、スズナはかぶ、スズシロは大根のこと。